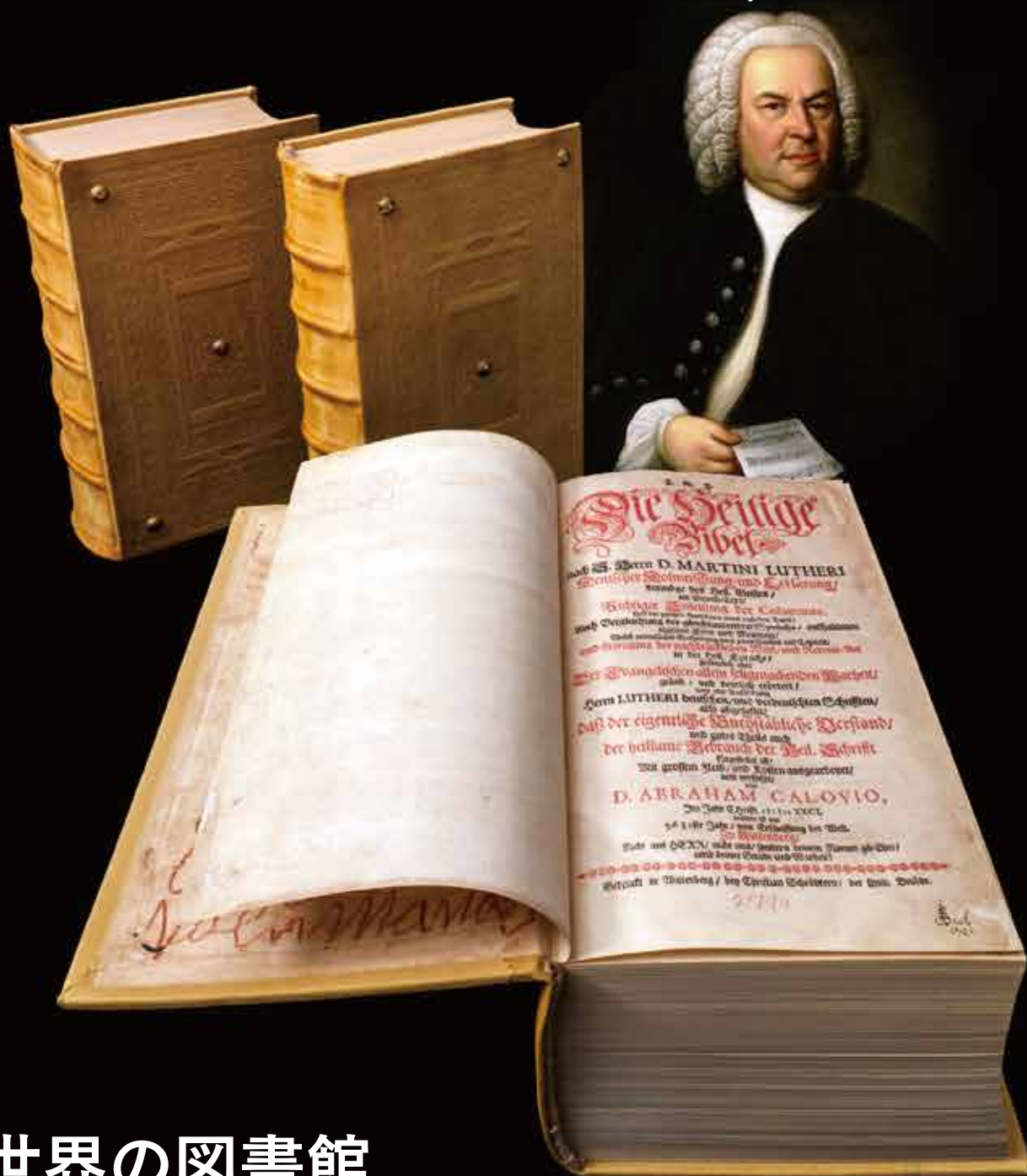


図書館報

— Seinan Toshokan pou —

2021.
October
No.191



世界の図書館

1 明恵さんのこと(1)―荒魂と和魂―

図書館長 古田 雅恵

2 研究ノートから

「日本国憲法における軟性と硬性」

法学部 国際関係法学科 准教授 C.G. ウィンクラー

ブラウジングルーム

「調査報道のお手本」

経済学部 経済学科 教授 熊谷 成将

3-4 世界の図書館

梶原町立図書館(雲の上の図書館)

梶原町立図書館 司書 木稲 沙央里

図書情報課 副課長 山下 大輔

5-6 図書館から研究支援を考える

オープンアクセス方針と機関リポジトリ

図書情報課 川崎 陽奈

7 蔵書ギャラリー no.31

『バツハ愛用 カロフ聖書』復刻版 全3巻

神学部 神学科 教授 須藤 伊知郎

明恵さんのこと(1)―荒魂と和魂―

図書館長 古田 雅憲

この春、東京国立博物館で「国宝 鳥獣戯画のすべて」と題する特別展が開催された――なにしろ「史上初!全4巻全場面、一挙公開!」である。すぐにも上野へと思ったが、幾県境を跨ぐかと思えばちとためらわれるし、また会場の密やかさほど気にもかかる。結局あきらめたのだったが、後日、知人の話を聞いて驚いた――絵巻物に沿って“動く歩道”が設けられていたとは。ついつい絵に見入って密を作ってしまうがちな大勢の鑑賞者は、その“動く歩道”に乗っけられてイヤも応もなく先へ先へと運ばれていったのだそう…嗚呼。

思い起こせば京都国立博物館での「国宝鳥獣戯画と高山寺」展(2014年)や九州国立博物館での「京都 高山寺と明恵上人 鳥獣戯画」展(2016年)も大盛況だった――この絵巻物の人気ときたらまさに「日本一」である。その全容までは御存じなくとも、ウサギだのカエルだのおサルだのが相撲を取ったり追いかけてこをしたりの名場面を思い出せる方は大勢いらっしゃるに違いない。ちなみに小学校6年生の国語教科書(光村図書)にも『鳥獣戯画』を読む」と題する文章が教材として採録されている。あの高畑勲さんの書き下ろしだから面白くないはずがない。この“ちいさいもの”や“かわいらしいもの”や“おかしげなもの”が大活躍する絵巻物は、子どもから大人まで大人気だ。

その日本一有名な絵巻物――「鳥獣人物戯画」(12c. 紙本墨画 4巻)を今日まで大切に伝えてきたのが、京都は北西の郊外、梅尾(とがのお)と呼ばれる山あいの地にたたずむ高山寺(こうさんじ)だ。拙文の表題に言う「明恵(みょうえ)さん」とは、奈良時代に創建されたと伝えられるそのお寺を鎌倉時代に中興したお坊様の愛称である。

明恵さん――明恵房成弁(みょうえぼう じょうべん、後に高弁と改める)は紀州の人。承安3(1173)年、平家一統の武者だった平重国(たいらの しげくに)と、紀州武士団の頭領だった湯浅宗重(ゆあさ むねしげ)の娘との間に生を得た。数え9歳の頃、父を戦で、母を病で相次いで失い、一時、紀伊に住む叔母のもとに身を寄せたが、間もなく、叔父にあたる上覚上人(京都高雄の神護寺に依った文覚上人の弟子)に従った――それが仏門を叩く契機となった。

明恵さんの子ども時代のことはよく分からないが、その生涯を記した資料にいくつかのエピソードが伝えられている――4歳の息子に烏帽子を着せて「なんとよい男ぶりじゃ、いずれは重盛様(平清盛の長男)のおそば近くに…」と悦に入る父の酔言に反発し、幼心に(武士になんか…

そうだ、この顔を潰してしまおう)と思い詰め、にわかに高縁から身を投げたことがあったとか。またその試みが失敗したのを無念に思い、今度は真っ赤に焼いた火箸を顔に当てようとしたとか。この幼子の内にある“激しさ”に哀れさえ覚える話柄だが、長じて後に(20代の半ば)、仏道修行に精進する証とするために、右耳を剃刀でみずから削ぎ落としたと伝えられていることを思いあわせれば、明恵さんという人の根幹に、たぶんごく幼い時分から何やら“荒ぶる魂”が確かに宿っていたと思わずにはいられない。

史実に明らかな明恵房は、16歳で出家を遂げてから60歳で亡くなるまでの間、東大寺を中心とする国家護持の仏教とは一線を画し、ひたすら自分自身と弟子たちに戒律の護持を厳しく課して修行精進に努めた。いっさいの妥協を許さず厳しく凛と、ひたすら釈迦と向き合おうとする孤高のたたずまいは、まさしくその内なる“荒ぶる魂”の発露と見える。

ただ一方で衆諸に向けては華厳密教の教えを分かりやすく説くと同時に、特に女性や障がいのある人々に現実的な救いの手を差し伸べた(当時主流の仏教界が為しえなかった活動だ)――その“慈しみの心”に触れた人々が「梅尾の明恵さん」と呼んで敬愛したのは当然のこと。

明恵さんが身の回りに置いて生涯大切にたとされる品々が伝わっている――木彫りの子犬、かあさんの櫛、浜で拾ったタツノオトシゴ、磯で拾ったきれいな小石などなど、彼の周りには“ちいさいもの”や“かわいらしいもの”がたくさんあった。国宝『明恵上人樹上坐禅像』(13c. 紙本彩色)には高山寺裏山の松のくぼみで座禅する明恵さんが描かれているが、その傍らには、群れ遊ぶ小鳥たちや木陰に休らうリスが描き添えられている――まるで明恵さんを慕っておそば近くに集ったかのよう。そういう明恵さんだからこそ「鳥獣戯画」のウサギだのカエルだのもまた、明恵さんを慕ってそのお膝許に集ったかといついつい思ったりもする。

“荒ぶる魂”と“慈しみの心”と――古来人々はそれを「荒魂(あらみたま)」と「和魂(にぎみたま)」と呼び、尊い神霊が兼ね備える神威の両面として崇敬してきた。特定の教団や宗派を興し率いたわけでもない明恵さんが、孤高の宗教者として今日に至るまで広く愛され続けているのも、その人に宿る二つの魂が今も人々の心を惹きつけるからに違いない。

参考資料

*「鳥獣人物戯画」に関する資料は、特別展「国宝 鳥獣戯画のすべて」(東京国立博物館編 朝日新聞社刊 2021年)の公式図録(本学図書館6階 A-01: 展示会図録 721/2/103)も含めて、本学図書館にも多く架蔵している。興味のある方はぜひ手にとってご覧いただきたい。

日本国憲法における軟性と硬性

法学部 国際関係法学科 准教授 C.G. ウィンクラー

日本国憲法は今年5月3日に、しかも憲法改正回数ゼロで、74周年を迎えた。人間だと、74歳なら、すでに定年退職中の方は多いだろう。そして、人生を通じて、成長したり、変わったりすることもある。一般論として憲法もそうあるべきだ。制定当時に想定されていない社会的変容が起こり、それに対応しないと現実から離れてしまうわけである。事実上、世界の憲法の平均寿命はわずか16年であり、憲法改正回数ゼロの憲法の寿命は3年に過ぎない。この数字を見て、改正せずに70年間以上生き残ってきた日本国憲法はいかに珍しいかよく分かるだろう。

その理由は96条で定めている衆参両議院における3分の2以上の圧倒的多数による可決および国民投票という憲法改正へのハードルは「非常に高い」とよく言われている。しかし、世界の憲法をみると、52%は、両議員における3分の2以上の多数による議決を改正の条件として設けている。憲法たる基本法を約60回改正してきたドイツにおいて、同じく両議員における3分の2以上の多数による議決はある。つまり、日本国憲法の改正条件は特段に厳しいとはいえない。

では、憲法の「不老泉」は何だろうか。その答えは憲法のデザインに関連している。「硬性」とされる日本国憲法だが、意外と軟性な側面も持っている。特に、選挙制度などの統治機構に関する規定において「法律でこれを定める」という表現は目立つ。従って、政府与党は、そ

の統治機構の枠組みを変容しようとする場合、憲法ではなく法律の改正で済む。衆議院の小選挙区比例代表並立制の導入をもたらした1990年代選挙制度改革、政令指定都市制度の設立、市町村の平成の大合併、三位一体改革という既存の統治機構への抜本的な改革の場合でも、地方自治法、公職選挙法等の法律の改正を通じて対応できてきた（要するに、他国において、議会の選挙制度に改正を加えようとする、憲法改正を必要とするケースは少なくはない）。つまり、長い間政権を握ってきた自由民主党は、憲法に手を伸ばさなくても、統治機構の改革が実現できた。言い換えれば、「実質的意味の憲法改正は行われている」（待鳥・駒村2016年476頁）。

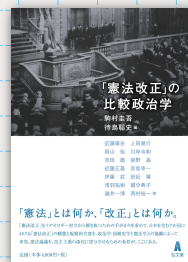
欧州において、革新勢力が求めてきた社会権利の充実、差別禁止規定を成文憲法に書き加えるような積極的な動きは国内に見えない要因は、日本国憲法のもう一つのデザイン要素である。特に、1947年施行を考慮すると、基本的人権に関する規定は数多く、しかも細かく明記されているのである。革新勢力はそれを評価してきたことで、左派による改正の必要性が低くなっている。

手厚い基本的人権規定および順応的統治機構関連規定は日本国憲法の「不老泉」の一つであると言える。

駒村吾吾、待鳥聡史編『「憲法改正」の比較政治学』弘文堂、

2016年[5階A:通常書架 323/01/189]

McElwain, Kenneth Mori and Christian G. Winkler. 2015. 'What's Unique about the Japanese Constitution? A Comparative and Historical Analysis'. *Journal of Japanese Studies* 41(2): 249-280



ブラウジングルーム

調査報道のお手本

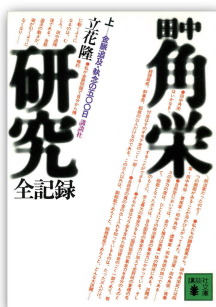
経済学部 経済学科 教授 熊谷 成将

新聞社の編集局で上司から「データが揃うのを待って書くのは学者」。新聞社退社後に進学した大学院でマスコミ嫌いの教員から「マスコミにいたような奴が入学したらいい」。新聞記者として、院生として不適格者とされた経験を有する私は、こう主張しています。「緻密な分析を行うことができるジャーナリストは、難解な学術研究を理解できる」。本年4月30日に逝去した立花隆氏（享年80歳）は、まさに、その人でした。

「知の巨人」との異名を取った立花氏逝去のニュースで、同氏が70年代に手掛けた調査報道の功績が称えられました。権力の中核に切り込んだ「田中角栄研究 その金脈と人脈」を『文藝春秋』誌に掲載した当時、調査班のメンバーが収集した膨大な資料を

立花氏が読み解いて、田中角栄氏のファミリー企業や後援会の人脈・金脈を相関図で示しました。テレビドラマの登場人物の関係を表す「人物相関図」が定着した今日では信じ難いことですが、相関図を用いた報道は国内初でした。『田中角栄研究』は「調査報道のお手本」と位置づけられています。

『田中角栄研究：全記録』には、「田中角栄研究の内幕」も収められています。



田中角栄研究：全記録

文藝春秋社の仮眠室に泊り込んで働き続けた日々を、立花氏は「取材チーム全体が一つの巨大なパズルに取り組んでいるような感じで、毎日、少しずつパズルが解けていく。その面白さにチーム全体が興奮し、全員が超人的に働いた」と述懐しています。また、足で稼いだ「裏取り」の舞台裏を明かしています。「私たちは、新星企業がつい最近も土地取引を行っている事実を知っている」。この35字を書くために、売買された土地の謄本、土地転がしに加わった企業の謄本、その企業の役員を調べ尽くした。ゆえに、火消しに躍りになっていた田中派が作為的に流したデマに屈しなかったと分かります。

裏取りを欠いた不確かな情報を発信・受信することが多い若者が『田中角栄研究』を読み、正しい情報収集を身に付けて欲しいです。裏取り後の情報が掲載される新聞を親御さんが定期購読している学生の割合は、小規模の調査結果ですが、経済学部の1～2年生で2割余り。9年前、前任校で調査した時の半分を下回っています。かつて調査報道を得意とした新聞社はすっかり斜陽化しましたが、COVID-19流行の終息後、福岡市内の某新聞社で勤務している高校時代の同級生と『田中角栄研究』を肴に「パズルが解ける面白さ」を語り合いたいと思っています。

立花隆著『田中角栄研究：全記録』講談社、1982年[5階 G：電動集密 312/81/48-1]

世界の図書館

[国内編]

世界の図書館は、図書館報2006年10月号(No.161)から続く連載企画です。多様な図書館像を知ること、建築表象としての図書館イメージを紹介することを目的としています。今回は、コロナ禍における特別企画として、国内で注目を集める公共図書館をご紹介します。



梶原町立図書館 (雲の上の図書館)

高知県高岡郡梶原町梶原1212番地2

話し手 ▶ 梶原町立図書館司書 木稲 沙央里 (梶原町立図書館【雲の上の図書館】)

山下 私は、2020年2月に縁あって、梶原町図書館へ視察訪問をさせていただきました。2018年5月に開館した図書館で、豊富な木材を利用して、町民の交流を意識した空間設計と温かい雰囲気が特徴の図書館です。改めて、この建物の魅力について、同館司書の木稲沙央里さんにお話を伺いたいと思います。木稲さんは以前、本学図書館でも勤務されたご経験があったこともあり、今回の機会をいただきました。

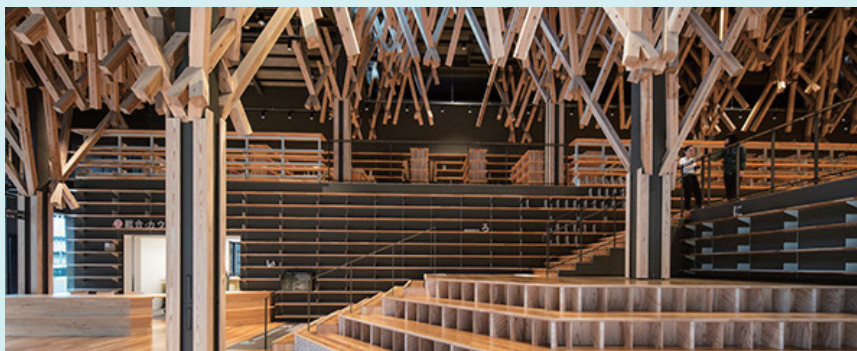
梶原町は、広大な森林に抱かれ、標高1,455mにもなる雄大な四国カルストが魅力の自然豊かな山間の町ですが、町の一番の魅力は何でしょうか。

木稲 当町の一番の魅力は、隈研吾氏設計の建物が6カ所あり、町の象徴の一つになっていますが、このように新しいことを取り入れることと、神楽等に代表される伝統的な文化を継承していることです。梶原町は6つの地区から構成されているのですが、それぞれに地区から意見が出され、取り入れていくことで新しい文化を創り出しています。一方、町内各地には、今も現存するお茶堂があり、伝統文化を継承しています。

山下 訪問した際に、隈研吾氏設計の建築物が、徒歩圏内に複数あることに驚き、感動したのですが、どのような経緯で、これだけの建物を同氏の設計で建設したのでしょうか。

木稲 梶原座という芝居小屋が今から30年以上前に取り壊しの話が出た際に、保存活動が起こったのですが、その際に当町を訪れた隈研吾氏も活動に加わるようになったのがきっかけです。この古い木造建築物に出会うことで、同氏の今の木材を多用する設計思想にも大きな影響があったと聞いています。

山下 隈研吾氏の特徴がよく出た魅力的な建物だと思いますが、利用者の方の反応はいかがですか。



[写真2 ゆすはらステージ:様々なイベントが開催されます。飲食も可能です。]

木稲 図書館に入っすぐの木組みを見て、皆さん立ち止まられます。木造建築は、本との相性もよく、滞在に向いている施設だと思います。段差も多い設計なのですが、靴を脱いでリラックスできることもあって、皆さん思い思いに使われていて、よかったなと思うことが多いです。

山下 従来の図書館とは異なり、様々な目的の方を受け入る思想で設計されていることを感じました。

木稲 学びの場、憩いの場、文化の継承・創造・発信の場という3つのコンセプトを持ち、人と人、人と本が「出会う場所」であることを大事にしています。

山下 従来の図書館の役割を超えて、様々な方を受け入れられているんですね。私が訪問した際も、「ゆすはらステージ」で、地元ピアニストの方の素敵な演奏会が開催されていました。

木稲 町で初めての図書館のため、「静かな古い図書館」のイメージが利用者の方々にあまり無かったことで、新しい空間として理解を得て、様々なチャレンジが来ています。地元の利用者の方と観光で来町される方や移住してこられた方との交流の場としての機能も持っています。より広く町民の方への認知度を深めていくことが今後の課題です。今は、町の6つの地区へ出張して出向いて

資料の貸出や紹介等を行っています。朗読、紙芝居、音楽と合わせたイベントを行う等の工夫もしています。

山下 全ての利用者の方に満足いただくことは難しいですけど、様々な工夫をされているんですね。館内も一部飲食自由で、滞在を意識されていますね。

木稲 印象的だったイベントとしては、認知症カフェをゆすはらステージで開催しました。医師、看護師、当事者の方、興味をお持ちの一般の方を交えて、館内カフェのコーヒーを飲みながら、イベントを開催出来たことは、図書館が様々な関係者の連携を取り持つことが出来た意味でもよかったです。会場が図書館であったことで、柔らかいイメージで、どなたでも参加できる雰囲気を作ることも出来ました。飲食も当初は資料汚損等心配していたのですが、大きな問題も無く運用出来ています。

山下 図書館の可能性が広がるといいですね。子育て支援室やベビールームが館内にあるのも珍しいですね。

木稲 教育委員会事務局が館内に入ることが決まっています。近くにもこども園があることもあり、図書館に子育て支援施設としての機能を持つことも決まっていました。教育行政との距離が近いことで、様々なコラボレーショ



[写真1 外観]



日本

聞き手 ▶ 図書情報課 副課長 **山下 大輔** (西南学院大学図書館)

ンの可能性を感じています。

山下 階段の壁面や4つの小さな小部屋等整然とした配置は難しい印象だったのですが、どんな思いで本を並べられているのでしょうか。

木稲 本棚を見て思わぬ出会いがあるワクワクする空間を目指しています。一方で、資料の手に取りやすさも大事にしてい、難しい本へのチャレンジや新しい出会いへのワクワク感を維持しつつ、本棚そのものには流れや関連性を意識した作りをしています。資料の配置は試行錯誤が大事で、開館した後、利用者の流れを見ながら随時資料の配置場所は細かに変更しています。利用者と一緒に棚づくりを行っている印象です。



[写真3 4つの小さな小部屋が連なるライブラリーは、自然・歴史・芸術・文化など古今東西のあらゆる知に触れることができるリベラルアーツ(教養)の森。]



[写真4 海洋堂ジオラマ:日本のフィギュア文化を創出した海洋堂の技と本のコラボレーション]

山下 伝統文化の継承を大事にされているとのことでしたが、新しい出会いとの一方で、町の郷土資料や資料保存について教えてください。

木稲 町の史談会の協力等を得ながら積極的に郷土資料を収集しています。郷土資料は、図書館内の目立つところに配置しており、目につくようにしています。貸出も多いですね。また、歴史関係の講演イベント等の発信も図書

館で行っています。今後の課題として、郷土資料のデジタルアーカイブを考えています。

山下 場としての新しい図書館と、伝統文化の継承の場として両立しつつ成長されているんですね。今後、新旧をとりまく環境がウェブ空間にも広がっていくといいですね。

木稲 人口が少ない町にもつたいない図書館と言われることもあるのですが、実際かなり広い範囲で利用されているので、先を読みながら、それぞれ職員(司書)の精通分野を主に担当しながら、選書・運営しています。今後も成長していけるように努力しています。

山下 そういえば、館内はボルダリングのスペースもありましたね。楽しいですね。



[写真5 ボルダリング:気力・体力・知力をフル動員する人気コーナー]

木稲 現在はコロナ禍で利用停止しているのですが、大人気で、数時間待ちという状況になることもあります。意外と年配の方等もちょっとやってみようという気持ちになるみたいです。

山下 最後に、大学生世代へ向けたメッセージをいただけますでしょうか。

木稲 正直、一番難しいと感じている世代で、悩んでいます。逆に、どんなニーズがあるのか知りたいと感じています。公共図書館には馴染みが無い方も多くいらっしゃると思うのですが、気軽に足を運んでもらえると、出来ることはたくさんあります。何もしなくても滞在出来る空間でもあります。いろんな可能性を知っていただけるとありがたいと思います。

木稲 山下 ありがとうございます。コロナの早期収束を願いつつ、遠距離で館種も違いますが、今後ともよろしく願いいたします。



[写真6 梶原町中心部]



[写真7 四国カルスト高原]

梶原町

～雲の上の町 ゆすはら～

町面積の91%を森林が占め、標高1,455mにもなる雄大な四国カルストに抱かれた自然豊かな山間の小さな町です。

・総人口:3,364人(令和3年5月)

図書館

- ・地上2階建(地下1階)
- ・延床面積 1,938.31㎡
- ・開館 2018年5月
- ・収蔵能力

開架 約55,000冊

閉架 約35,000冊

・設計

隈研吾建築都市設計事務所

図書館から研究支援を考える

オープンアクセス方針と機関リポジトリ

図書情報課 川崎 陽奈

西南学院大学は2021年3月に「西南学院大学オープンアクセス方針」(右ページ)を策定しました。これにより、今後は本学にて生産された学術研究成果及び教育成果を原則として機関リポジトリに掲載することで、オープンアクセス化することを目指します。本稿では、オープンアクセスと本学における機関リポジトリの取り組みについてご紹介します。

1. オープンアクセスとは

オープンアクセスには大きく分けると「グリーンオープンアクセス」と「ゴールドオープンアクセス」の2つがあります。^{※1}「グリーンオープンアクセス」は著者が論文をセルフアーカイブし機関リポジトリ等で公開することにより、無料で読めるようにすることで、「ゴールドオープンアクセス」は論文の雑誌への掲載時に論文掲載料(APC)を支払うことで、利用者が無料で論文を読めるようにすることです。

近年、機関リポジトリを構築し、所属する構成員の研究成果等を公開する機関が増えており、その数は2021年8月末時点で698機関に及びます。^{※2}本学でも2014年に機関リポジトリを構築し、主に学内で発行された紀要論文を登録・公開してきました。

2. 西南学院大学機関リポジトリ

本学の機関リポジトリにて公開しているコンテンツは、【表1】の通りです。登録件数は紀要論文が最も多く、2021年8月末時点で1,597件を登録しています。また、2021年4月からは学内の各部署で発行している刊行物の収集、登録を開始しました。^{※3}

【表1】コンテンツ別の登録件数(2021年8月末時点)

種 別	登録件数(件)	種 別	登録件数(件)
紀 要 論 文	1,597	学術雑誌論文	1
博 士 論 文	34	学 内 刊 行 物	4

コンテンツの収集・登録は以下の2つの流れで行っています。

①紀要論文及び博士論文

1. [取りまとめ部署]データを収集し、図書館へ送付
2. [図書館]機関リポジトリに登録、公開

②その他

1. [登録申請者(教員、各部署)]教育・研究推進課/図書館(repository@seinan-gu.ac.jp)へデータ送付
2. [図書館]掲載可能なものであるかを確認
3. [図書館]機関リポジトリに登録、公開

3. コンテンツの公開の仕組みと登録するメリット

機関リポジトリに登録したコンテンツの多くは、そのメタデータを外部のデータベースにハーベスト(収集)されることで、広く公開されます。コンテンツにもよりますが、メタデータの提供・公開先としてはCiNii等

が挙げられます。ハーベストの結果、CiNii等にてメタデータが検索結果としてヒットするようになり、機関リポジトリへのリンクを辿ることで利用者がコンテンツへアクセスできるようになります。

また、機関リポジトリに教育、研究成果を掲載するメリットとしては、①成果を広く公開することで、より多くの人から読まれることが期待される ②大学で登録していくため、安定的に成果を蓄積することができると挙げられます。

4. 今後の取り組み

現在は主に学内で発行している紀要論文を登録していますが、機関リポジトリはセルフアーカイブによりオープンアクセスを推進することを目的の一つとしていますので、今後は紀要論文に限らず、学術雑誌論文や発表資料、学内刊行物等を広く公開し、研究成果や教育成果を学内や社会に還元していく受け皿となることを目指していきます。

加えて、今後、現在既に登録しているものを含めて機関リポジトリに登録するコンテンツへDOIを付与していく予定です。DOIとは電子的なコンテンツに対して与えられる識別子で、付与することでコンテンツへアクセスするための永続的なURLとなるほか、コンテンツを特定する国際的な識別子になります。加えて、将来的には研究データ等の機関リポジトリへの登録、公開も目指し検討していきます。

5. 申請方法と登録のお願い

学術研究成果及び教育成果で機関リポジトリへの登録を希望されるものがありましたら、機関リポジトリ登録申請書及び、掲載コンテンツの電子データ(pdf)等を下記宛先まで送付してください。この他、教育・研究成果の機関リポジトリへの登録についてのご相談やお尋ねがありましたら、お気軽にお問い合わせください。

また、今後は図書館や関係部署より機関リポジトリへの登録の依頼をすることがありますので、登録へご協力をお願いいたします。

■機関リポジトリ登録申請書:

<https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/files/uploads/repo-shinsei2.xlsx>

■宛先:教育・研究推進課/図書館

メールアドレス:repository@seinan-gu.ac.jp

① 西南学院大学オープンアクセス方針【P6参照】

(https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/files/uploads/seinan_OApolicy.pdf)

② 西南学院大学機関リポジトリ

(<http://repository.seinan-gu.ac.jp/>)



① ②

※1 山下大輔「図書館から研究支援を考える：雑誌費の高騰とオープンアクセスの流れ」西南学院大学図書館報187号(2019年11月)でも紹介しています。

※2 日本国内の機関リポジトリは国立情報学研究所にて一覧が公開されています。
<https://www.nii.ac.jp/irp/list/> (2021/8/28最終閲覧)

※3 西南学院大学機関リポジトリ>学内刊行物
<http://repository.seinan-gu.ac.jp/handle/123456789/9> (2021/9/2最終閲覧)

西南学院大学オープンアクセス方針

2021年3月9日

（趣旨）

1. 本学は、建学の精神及び西南学院大学の研究に関する基本方針に基づき、本学において生産された学術研究成果及び教育成果（以下「コンテンツ」という。）を電子化して、西南学院大学機関リポジトリ（以下「リポジトリ」という。）を通じて無償で公開・発信（以下「公開」という。）することにより、コンテンツの社会への積極的な還元に努めるとともに、学術情報の流通促進に寄与するために、オープンアクセスに関する方針について定めるものとする。

（コンテンツの内容）

2. 本方針において公開するコンテンツの内容は、本学における学術・教育研究活動の成果及び本学の沿革などの管理運営等に関する資料とする。この場合において、コンテンツの内容の詳細は、西南学院大学機関リポジトリ管理運営規程に定める。

（コンテンツの公開）

3. 本学は、リポジトリを通じて本学構成員が生産したコンテンツを公開する。この場合において、形成されたデータベースの著作権は、本学に帰属する。ただし、公開によりコンテンツの著作権が本学に移転するものではない。

（公開の例外）

4. 著作権その他の理由によりリポジトリによる公開が不適切であると判断される場合には、当該コンテンツを公開しない。

（適用の不遡及）

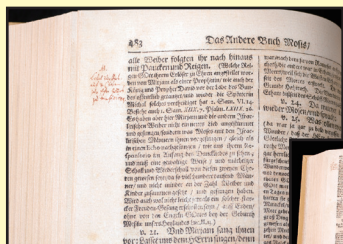
5. 本方針以前のコンテンツには、原則として本方針は適用されない。ただし、学内外に広く公開することが適切であり、著作権その他の理由に問題がない場合には、本方針を適用することができる。

以上

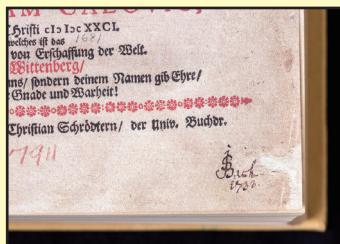
『バッハ愛用 カロフ聖書』復刻版 全3巻

[6階 R:貴重書庫 193/09/155-1, 2, 3]

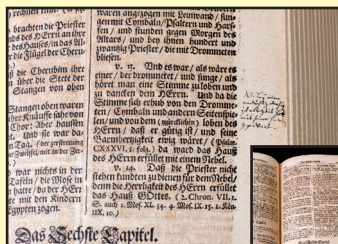
(Die heilige Bibel nach S. Herrn D. Martini Lutheri deutscher Dolmetschung und Erklärung ..., von D. Abraham Calovio, Originally published: Wittenberg: Christian Schröder, 1681-1682; Reprint: Franeker: Uitgeverij Van Wijnen, 2017)



【図1】出エジプト記15:20の欄外注記



【図2】第1巻扉右下のサインと1733の数字



【図3】歴代誌下5:13の傍点と欄外注記

S. バッハが愛用していたA.カロフ編『ルター訳ドイツ語聖書』のファクシミリ復刻版である。ルター派正統主義の神学者カロフがルター訳聖書に、ルターの著作から抜粋した注解を付し、自分自身の注も加えた全3巻、大部の学習用聖書である。宗教改革の後16世紀末から18世紀初めにかけて、ルター派はローマ・カトリックや同じプロテスタントの改革派とも論争を続け、その教義体系を聖書に基づいて「正統」なものとして論証しようとしていた。信徒が聖書を学ぶことを奨励するため、カロフはこの解説付き学習聖書を編纂したのである。バッハは聖書本文の所々に下線を引き、欄外にマークを付け、書き込みをしている。この聖書はバッハの死後、妻のアンナ・マグダレーナに遺されたが、その後行方不明となり、1934年に偶然米国ミシガン州の農家で発見された。ドイツの学者が鑑定した結果、バッハ愛用のものと判明したが、所有者はこれをヒトラーが独裁を確立しつつあったドイツに戻すことを望まず、セントルイスにあるコンコルディア神学校に寄贈、現在もその図書館に所蔵されている。^{※1}

このカロフ聖書の書き込みとバッハの作品を結びつけようとする試みがなされてきたが、残念ながら成功していない。たとえば、出エジプト記15:20の欄外には“NB. † Erstes Vorspiel † auf 2 Choren † zur Ehre Gottes † zu musiciren.”「注意せよ。二つの聖歌隊で神の栄光のために演奏する最初の先行事例」と書き込まれている【図1】。イスラエルの民がモーセに率いられてエジプトを脱出し、葦の海を

渡った時に、女預言者ミリアムがタンバリンを手に取って踊り、人々に応えて歌ったという箇所である。この書き込みの“Vorspiel”をプレリュードの意味と解し、バッハのモテット1番“Singet dem Herrn ein neues Lied” BWV 225「主に向かって新しい歌を歌え」が念頭に置かれているとする主張がある。たしかにこのモテットは二つの聖歌隊のために書かれており、歌詞には「タンバリン」と「踊り」が見れる。しかし、この曲は1727年作曲であり、バッハのカロフ聖書のサインには1733年と書かれているので、年代的に合わない【図2】。最新の研究によればこの“Vorspiel”はプレリュードのことでなく「先行事例」の意味であり、バッハはこの箇所に後のキリスト教会の交唱 (Antiphon) の予型を見ている。^{※2}

歴代誌下5:13には音楽の持つ意義について重要な書き込みがある。ソロモンによる神殿奉獻の際に、大勢の祭司たちが楽器と共に声を上げて主を賛美すると、雲が神殿に満ちた、という箇所に、バッハは傍点を付け“Beÿ einer † andächtig Musig † ist allezeit Gott † mit seiner Gnaden- † Gegenwart”「敬虔な音楽の傍に常に神はその恵みの臨在と共におられる」と注記している【図3】。当時のルター派正統主義において不安定な位置付けであった音楽について、それは神によって与えられた礼拝に欠くべからざるものであるという解釈を導き出し、バッハはここに自らの使命を見出しているのである。

※1 バッハの死後、カロフ聖書の発見に至る経緯についてはCox, H., The Scholarly Detective. Investigating Bach's Personal Bible, Bach 25 (1994) 28-45, 28f.を参照。

※2 Marissen, M., The Biographical Significance of Bach's Handwritten Entries in his Calov Bible, Lutheran Quarterly 34 (2020) 373-389, 379-382を参照。

編集後記

後期は原則遠隔授業でのスタートとなりましたが、図書館では学習や読書をしている学生の皆さんの姿を多くお見かけします。少しでも皆さんのお役に立ちたいと思っていますので、学習で困ったことがある時には、ぜひ図書館のサービスをご活用ください。また、図書館の利用について不明な点があるときには、1階カウンターまでお気軽にご相談ください。

(Y.S)

西南学院大学図書館報 No.191

2021年10月30日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

Email lib-jm@seinan-gu.ac.jp

<https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/>

図書館報バックナンバーも上記サイトに掲載しています。